

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)	
① 言葉の特徴や使い方に関する事項	やや課題が残る結果であった
② 我が国の言語文化に関する事項	概ね良好な結果であった
③ A話すこと・聞くこと	やや課題が残る結果であった
④ B書くこと	課題が残る結果であった
⑤ C読むこと	概ね良好な結果であった
(問題形式)	
① 選択式	概ね良好な結果であった
② 短答式	課題が残る結果であった
③ 記述式	やや課題が残る結果であった
(無解答率)	概ね良好な結果であった
(その他)	
<p>・もっとも正答率の高かった設問 設問1 (1) 話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題</p> <p>・もっとも正答率の低かった設問 設問3 (2) 文章に対する感想や意見を伝えあい、自分の文章の良いところを見付ける問題</p> <p>・もっとも無解答率の高かった設問 設問3 (2) 文章に対する感想や意見を伝えあい、自分の文章の良いところを見付ける問題</p> <p>・もっとも無解答率の低かった設問など 設問1 (2) 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。</p>	

<p>分析</p> <p>全国的な傾向と同様に「我が国の言語文化に関する事項」「C読むこと」では概ね良好な結果であり「B書くこと」「短答式」「記述式」は、課題が残る結果であった。</p> <p>「C読むこと」のイ「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」に関する問題は正答率が高かった。授業の中で物語の構成を意識し、系統的な学習を継続している成果が表れている。</p> <p>一方、「要約する」「立場を明確にししながら、自分の考えをまとめる」「文章の良いところを見つける」などの条件に合わせて書くことに課題がみられる。これは、読書量、読解力や語彙力の課題もその要因であると考え。主語・述語を意識して読ませたり、事実と意見を区別して読ませたりするなど、学年に応じた読解力をつける指導を継続する必要がある。</p> <p>本校では、読書座談会を取り入れた「書く力の育成」をテーマとした国語の授業づくりを3年前より継続しているが、今後も文字数や指定した言葉を使ってふりかえりを書く取組みを継続し、スピーチ、日記、読書活動など教育活動全般を通して国語力の向上に取り組んでいきたい。</p>

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-----------|-------------|
| ① A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ② B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③ C変化と関係 | 課題が残る結果であった |
| ④ Dデータの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問

設問(1) 1被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること

設問(4) 2図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質や構成の仕方について理解している

・もっとも正答率の低かった設問

設問(2) 3示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している

・もっとも無解答率の高かった設問

加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方を記述できる。

・もっとも無解答率の低かった設問など

設問16問中、11問が0%であった。

分析

昨年度に引き続き、領域では、「Dデータの活用」が良好な結果であった。今後も目的に応じて分類整理をすることや、データの特徴をとらえ、円グラフや表を読み取る活動を理科や社会などの他教科でも取り組みを継続し、様々な事象について考察、多面的に捉える能力を向上させたい。

すべての領域において問題形式「選択式」「記述式」でやや課題が残る結果になった。特に「C変化と関係」で全国的な傾向と同様に正答率が低い。問題場面の数量の関係に着目し、基準量や、比較量、割合量の関係、比例の関係を用いて表現すること。日ごろから日常の生活場面に置き換えるなど具体的な場面を想定して考えを深められるような授業の展開をしていく必要がある。

「B図形」の長方形の作図では、図形の構成要素に着目し、構成の仕方や性質を理解している。しかし、正三角形やひし形については構成する要素の関係や、必要な作図の手順の理解が不十分なためか、正答率が低い。昨年度に引き続き、図形の性質や構成要素に着目し、数学的活動を通して基礎基本の定着を図っていく。

(領域ごと)

- ① エネルギー 概ね良好な結果であった
- ② 粒子 課題が残る結果であった
- ③ 生命 やや課題が残る結果であった。
- ④ 地球 概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式 やや課題が残る結果であった
- ② 短答式 やや課題が残る結果であった。
- ③ 記述式 やや課題が残る結果であった。

(無解答率) やや課題が残る結果であった。

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問

設問4 (1) 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。

・もっとも正答率の低かった設問

設問2 (4) 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持ちその内容を記述できる。

・もっとも無解答率の高かった設問

設問2 (1) メスシリンダーという器具を理解している。

・もっとも無解答率の低かった設問など

17問中14問全員が解答できていた。

分析

選択式、短答式、記述式ともにやや課題が残る結果となった。

全体を通して無解答が少なかったことは意欲的に問題に取り組んだ結果であると考え。どの領域においても、授業で実験や観察などを多く取り入れていることの効果が表れていると考える。今後も引き続き、6年生までの系統性を意識し、実験や観察を多く交えた授業を継続していく。

短答式、記述式は、知識としては定着しているものの、自分の言葉で答え、基礎的な知識を活用して発展的に考えて解答をするといった力に課題がある。また、選択式では、文章を読み取る力に課題がある。

授業中、自分で考えたり、ペアやグループで考えたりして答えを練りあげていく活動や理科の用語を正しく使って条件をつけて振り返りを書くことを今まで以上に増やすとともに、日常生活と結びつけながら学習を進めていくことも大切にしていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

国語では、高位層がやや増加傾向にある。算数では中位層が増えた。

無解答率は昨年度よりやや低くなっており、「わかる授業づくり」など本校の丁寧な取り組みの成果が表れていると考えており、今後も授業改善を進めていく。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力低位層・学力高位層が減少傾向にあり、エンパワー層が増加傾向にある。

引き続き「一人も見捨てへん教育」を進め、丁寧に学力の底上げを図っていく。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① 授業改善

- ・国語「読む力」「書く力」を育み、自分の思いや考えを豊かに表現できる力をつける授業づくり」「基礎学力をもとに主体的に自己表現をし、互いに学び深めることができる子どもを育てる」「読書座談会を通して書く力を育む」研究授業・校内研修会の実施
- ・支援人権委員会よりユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり
- ・問題解決学習の追求 主体的・対話的・深い学びの授業づくり
- ・算数（3年～6年）1クラス2分割習熟度別授業の実施
- ・算数の習熟度別授業の担当教員を中心とした3年から6年の系統性、継続性のある指導の重視
- ・子どもが分かる授業づくり
全教科で「めあて」を明確にし、「振り返り」を大切に授業づくりを行っていく。
- ・西河原スタンダードを基にした授業（授業の進め方、授業に集中しやすい筆箱の中身、挨拶の統一）
- ・ICT機器を活用した授業
- ・1人1台タブレットの活用
ミライシード、タブレットドリル、オクリンク、ムーブノート、Teams
- ・プログラミング学習の充実
- ・「ことばのちから」を活用した書く力の育成

② 学力低位層を減らす取組み

- ・デジタル教材や視覚教材の活用
- ・実態に合わせた課題の設定
- ・学習サポーターによる入り込み指導
- ・補充学習の充実
授業時間外での個別補充学習。（15分休み、昼休み、放課後等）
算数教室での自主学習（児童が自ら分からないことを聞きに来ることができる環境づくり）

③ 家庭との連携

- ・家庭学習がんばり週間（家庭学習の定着・充実を図るため毎学期1回実施する。）の実施
- ・保護者へ家庭学習啓発プリントの配布。
- ・学校だより、学年だより、ホームページにて教育活動内容とその目的、授業中の児童の様子等を伝える。

④ 保幼小中連携

- ・合同研修会の実施
中学校ブロックで連携してブロックの課題解決について話し合う。
連携カリキュラムの実施・検証・改善。
- ・小中合同研究会の実施
「書く力の育成」をテーマに各校での取組みを交流し、継続的な力の育成を図る。